

# たけな

9

立川と語ろう 立川に生きよう  
September 2003  
écoutez bien Vol.22 No.226



表紙の人／久田早苗（栄町）  
写真／細江英公



多摩川を代表する魚は鮎。  
江戸時代には徳川将軍家に＜御用鮎＞として献上され、  
江戸の文人たちが鵜飼いなどの鮎漁を  
見、味わい、清遊する行楽地にもなった。

# 銀鱗を躍らせて

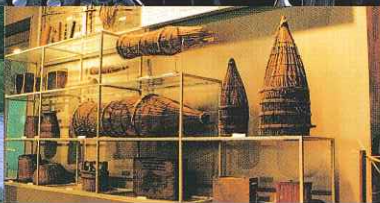
## 将軍さまも愛でた多摩川の鮎

写真：五来 孝平 他

水中のおとり鮎を操りながらアタリを待つ。他にはない独特のスタイル



おとり鮎と友釣りの仕掛け。  
釣り糸は髪の毛よりも細い



伝統の知恵が生んだ  
鮎などの漁撈具  
(立川市歴史民俗資料館)

現代の鮎釣りに同行させてもらった。釣り人は青梅市で釣具店を経営する河野喜好さんたち。いずれも一家言持つ名人だ。が、魚影は薄い。「本来は川に入るだけで鮎の匂いがするものなんだけど……」と名人のひとり。

青梅市内の柳淵橋のたもとに、石川千代松博士が大正2年、琵琶湖産の小鮎を初めて放流した記念碑がある。鮎は海で冬を越した稚魚が春に川を遡り、秋に河口に下って産卵し寿命を終える。途中で堰などの人工物があると稚鮎は川を遡れない。多摩川で成功した鮎の放流によって全国の川が恩恵を受けている。

伝統的には多くの漁法があったが、現代の釣りは友釣り。なわばりに入った他の鮎を追い出そうとする習性を利用した独特の釣りだ。全力でおとりに体当たりして針にかかった引き味は「やった者にしか分からない快感」だという。「昔は、女遊びがおさまらない男には鮎釣りをさせると言ったものです」と河野さん。釣り人たちは秋までの短いシーズンに全エネルギーを注ぎ込む。

# 大人自身が変われば子どもは変わるんです。



於：立川市柴崎町「東京 賢治の学校」  
写真：五来孝平

## NPO法人「東京 賢治の学校」代表 鳥山敏子さん

●鳥山敏子（とりやま・みこ）  
昭和16年（1941年）広島生まれ、香川県育ち。青梅市、昭島市、中野区の公立小学校の教師を経て、1994年に宮沢賢治の教育精神を活かす「賢治の学校」設立に参画。97年からは立川市で「東京 賢治の学校」を運営し、NPO法人としてシュタイナー教育にもとづく教師や親、地域が一体になった教育を実施。大人を対象とした各種のプログラムも開催している。  
●芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集人

**芳賀** 教育者の方と話をするのはどうも苦手ですね。僕自身、ボーッとしたまま学校を出てしまいましたし、子どもの教育にも熱心なわけじゃなかったから。僕らの子どものころは、それでもなんとなく自分の居場所みたいなものを見つけられたような気がしますけど。

**鳥山** 何年生まれですか？

**芳賀** 昭和30年ですから、1955年。

**鳥山** それより以前だと、学校に行きたくてもいけない子どももいる時代がありましたよね。それが今では頼むから学校に行ってくれという時代。

**芳賀** それっていったい、どうしてなんでしょうね？

**鳥山** 親は子どもが生きていけるように援助しているようで、逆のことをやっていることがあるんです。それに幼児の頃は熱心に子育てをしても、学校に行くようになると全部学校にお任せにしてしまう。親自身

が家族、家庭の問題に取り組んで自分の生き方を切り開いていかないと、子どもは学ぶことが出来ないんです。例えば家でいい子をやっていると、学校でそうじゃないことをやらないと子どもはもたないということがあります。

**芳賀** へえ！ 学校で問題を起こす子って、家じゃいい子のことが多いんですか？

**鳥山** ええ。みなさん知らないんです。子どもはそれでバランスをとっている。親はいい成績をとったりすることには熱心だし、その範囲のことをやるのが学校だと思っていますが、子どもの方はだんだんすすんでくるんです。それを教師の力だけで何とかするのは難しい。あちこちで学級崩壊などということが起こっていますが、その前はいじめや校内暴力……。

**芳賀** 鳥山さんは長年公立学校の教師をされてから「賢治の学校」を作られたわけですが、それはやっぱり公立学校では限界が

あると考えられたから？

**鳥山** 公立学校に問題があるのはわかって教師になったんですけどね。そのなかで、本当に自分自身を生きみんなのために役立つことができないうか？と30年間挑戦したつもりですが、最後は心身ともに疲れ切っていました。

**芳賀** でも、鳥山学級というのは全国からその教育法を学びに教師や教師を目指す学生がやってきたそうじゃないですか。

**鳥山** 私が受け持った子どもたちが問題も起こさず勉強もよく出来たとします。それは私につき合っただけなのかもしれないし、本当は自分のなかで面白くないものを閉じこめてとりあえず勉強しているにすぎないかもしれません。それは本当の学びではない。世の中を切り開いていったり人間として生きていく力というのは、そんな生やさしいことではつかめないんです。しかも教師がそれこそ寝食を忘れて取り組めば取り組むほど、親は安心してお任せになってしまう。もちろん良心的に取り組む父兄もいます。でも多くの親は変わらない。私自身の問題として、国の指導要領とかでなんとなく自分がごまかされているような環境にも限界を感じたんです。

**芳賀** そのままで突き詰めて考えられたわけですか。

**鳥山** 私は自分が納得できる人生にしたいだけ。ぶつかり合うことも多かったですが、嘘をついたり言いたいことを言わないでいたら生きていく意味がないじゃないですか。大人の世界は当たり障りのないことをやるのがいいんだというなら、子どもにそういう大人になれるのかということなんです。教師は人間として全部が問われます。私の場合は竹内敏晴という演出家から自分が本当にそうしたいのか、それともごまかしをやっているのか、自身を厳しく見るレッスンを受けた。そうでないと子どもと向き合う力が弱いものになってしまうんです。

**芳賀** 「賢治の学校」はどういう学校ですか？ 実践されているシュタイナー教育も名前を聞いたことはあっても、どういうものかよく知らないのですけど。

**鳥山** 「賢治の学校」は宮沢賢治が農学校教師時代に目指した教育に共鳴した人たちが94年に全国で作りました。私たちが実際に生徒を受け入れたのは95年で、97年に立川に現在の「東京 賢治の学校」を開校しました。今、幼児を含めて約60人が通っています。シュタイナー教育はドイツのルドルフ・シュタイナーが20世紀初頭に提唱したもので、突き詰めると宮沢賢治と同じで、ひとりひとりの体の中にすべて宇宙の法則があるということです。宇宙の法則に従って植物が芽を出して伸びていくように、人間だっておのずと生きる方向に行くはずなんです。賢治の学校の授業がふつうと変わっているのは朝の110分のエポック（中心）授業でしょうか。漢字なら漢字を1か月続けてやるんです。もちろんその時間ではリズム、響き、動き、ことば、歌などを全身を使って体験し、からだの呼吸、集中をたかめながら、中心授業へと向かっていきます。学ばされるのではなく命自らが学ぶからだへと集中させていく道のりを大切にします。ところで、頭つまり思考と感情、意志、このなかのどれを最初に育てると思います？

**芳賀** 感情……ですか？

**鳥山** 残念。意志です。意志というのは行動する力。これを育てるには0歳から7歳までが勝負。手足だけでなく臓器を育てることが大切なんです。そのために7歳までは触覚、生命感覚、運動感覚、平衡感覚などたっぷり働かせからだを育てていきます。豊かなイメージの広がるごっこ遊びや、粘土をこねたりお話の世界に入ったり、体全体を使ってのリズム運動をたくさんやり、生きたからだを動かす楽しさ、友だちと一緒にいることの愉快さをできるだけ体験させるのです。土や石や魚や昆虫、草花、水や空気や光や動植物などの自然のもの、小川や林や田畑など自然の場も重要な役割を果たしてくれます。7歳から14歳でも感情、心に働きかける授業が重要です。芸術としての授業を大切にします。ものに触れ

たり作ったり表現したり、歌や楽器、詩、絵、造形や農業にも取り組みます。物語や説話、伝記を体験しながら世界を広げ、動植物とも語り合う。そうやって少しずつ地上での人間の営みを知り、高学年では学問的なものに発展していきます。そういう時間の中で優劣によって差別されず、あらゆるものをたっぷりと呼吸して、自分への肯定的感情を育み積み重ね、友だちへの理解も深めていくんです。14歳を過ぎると、感じていることと一体となっていく言語能力、思考力、自我感覚を育てます。つまりそれぞれの年齢のときに何を育てる時期かを見きわめ、学ぶ内容を見つけ出していくことが大事なんです。12歳少年の殺人事件などが問題になっていますが、こういう体験をした子供は決してそのようにはなっていないですよ。

**芳賀** 大人向けのプログラムもたくさん行っています。それはやっぱり親が変わらないと子どもは変わらないということ？

**鳥山** 「賢治の学校」では自分がやらずに子どもに要求することは、やってはならない大人の行為です。子どもがどうのじゃなくて、大人が変われば子どもは変わるんです。

**芳賀** 「賢治の学校」のようなNPO法人が運営する学校はまだ正式な学校と認められていませんが、構造改革特区で風穴が開きそうです。親と教師が手作りで理想の教育を目指す運動はこれから広がりそうですね。

**鳥山** 大規模でなくていいから、いろんなところで気づいた人が作るというんです。志を持っている人たちがグループを作って責任を持つ。運営には税金も使う。教師もよっぽど勉強していないと前述のような授業はできませんよ。もうこれからは国がこうだからとか誰かのせいにする生き方はやめましょう。一人ひとりの親や教師、大人が、目の前にいる子どもに合った教育を必死になって創り出して。そういう覚悟を持った教師や親が集まってこない学校は成り立たないと思うんです。私自身は公立学校を辞めてよかったですね。毎日の苦勞のすべてが実りへと変化し、そしてうれしいことに日毎に面白くなっていくんです。

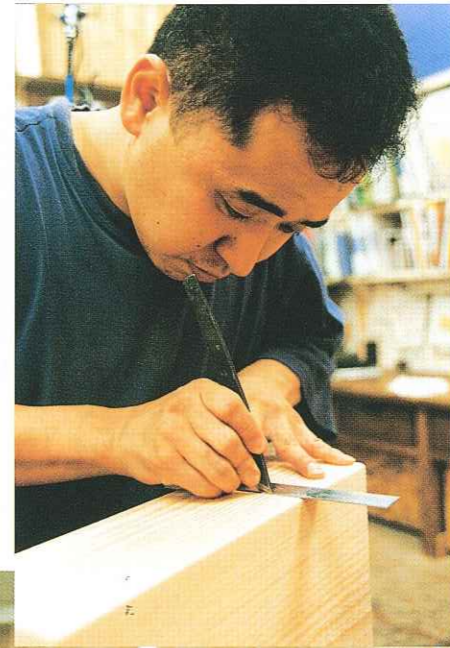
ビックカメラ 立川店	曙町2-12-2 548-1111
Wine & Dining るもん	曙町2-12-13 527-3022
東京三菱銀行 立川支店	曙町2-13-3 524-4121
カフェ アバン	曙町2-17-15-2F 527-4479
トボス 立川店	曙町2-18-18 525-0331
三井石油 フロンティア立川	曙町2-19-9 527-3943
手打ちそば しえもと	曙町2-20-5 529-5468
溪流魚料理 一竿	曙町2-22-23-B1 527-3640
洋風居酒屋 赤い靴	曙町2-25-4 527-6480
園部肉店	曙町2-28-16 522-2901
串やきと牛たんの店 JEAN	曙町2-32-14 529-6210
三田花店 立川高島屋店	曙町2-39-3-1F 526-4187
エミリーフローグ 高島屋立川店	曙町2-39-3-3F 526-9788
立川高島屋 サービスフロア	曙町2-39-3-7F 525-2111
オリオン書房 ノルテ店	曙町2-92-43-3F 522-1231
和菓子部 花奴万葉庵 工場売店	高松町1-22-8 0120-398785
多摩画材 (景品交換所)	高松町2-1-25 522-6031
丸助青果店	高松町2-4-18 522-3542
スーパー やなぎや	高松町2-5-17 522-4322
米穀・食料品 横町屋	高松町2-11-23 522-2609

えくてびあんの輪  
人があつて、街があります。  
あなたがあつて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えくてびあん！  
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は曙町・高松町・若葉町・西砂町のお店です。

山梨中央銀行 立川支店	高松町2-16-13 526-1571
レストラン 榎	高松町2-22-2 526-2276
ふじ整体院	高松町2-25-2-2F 540-9155
OBANZAI-YA 茄子菜	高松町3-14-2 521-2918
書籍・雑誌 フレンド書房	高松町3-18-2 527-1555
活魚割烹 きよみず	高松町3-19-2 526-3885
HAIR MAKES たしろ	高松町3-26-16 525-2175
ふとんの青木寝商	若葉町1-8-1 536-6833
シルバーレストラン サラ	若葉町1-10-1 534-0602
Beauty Salon リラ	若葉町1-11-1 536-3048
みふじサイクル	若葉町1-12-4 536-7166
生鮮館 和光 立川店	若葉町1-13-2 538-3121
浅見内科医院	若葉町1-11-20 537-0918
いなげや 立川若葉町店	若葉町3-21-1 537-4119
SHOP99 若葉町店	若葉町3-37 534-2941
鮎処 舍利とねた	若葉町3-43-2 537-4120
パティスリーブルミエール	西砂町1-36-11 531-4835
伊藤商店 フレッシュ1	西砂町1-45-4 531-9009
有限会社 東京きのこ社	西砂町2-32-2 531-5625
自己実現広場 ぎやらり一蘭	西砂町5-6-2 531-2392

着慣れたお気に入りの服と同じように、使うほどに愛着の深まる家具がある。出来合いでなく自分のために作られたオリジナルなら、なおのこと。使っていて楽しくなる遊びどころがあればもっと……。富士見町の倉庫の多い一画。鉄板張りの倉庫のひとつを工房にしている山上一郎さんが作るのは、そんな家具だ。



工房には木工機械や工具、家具の型などがびっしり並ぶ

ぬくもりと

遊びを創る

## 山上一郎さんの家具工房「木とり」

木は生きもの。寸法をとり、木を語る表情は真剣だ



テレビ制作会社で報道特集番組を作っていた山上一郎さんが「過労死の問題を訴える番組を作りながら自分ももっと不規則な生活をしてきた」。二十八歳で日曜大工で楽しんでいた家具作りに転身する。大工だった祖父、設計家の父の「血」かもしれない。木曾駒ヶ岳山麓、長野県上松町の職業訓練校で基礎を学び、家具工房勤務を経て二〇〇〇年、誕生日の十月一日に郷里に工房を開いた。「木とり」というちょっと奇妙な名は「木工をやる場所だから」。すでに僕が西歳生まれだったから」。すでに遊びどころ十分。

注文を受けると、まず「この人の使い勝手がいいようにするには……」と考える。話し合いのなかからイメージを練り上げラフスケッチに。詳細な設計図は描かずに実際に使う材料で考える。陶器や鉄など、クリエーター仲間の力を借りる場合もある。「作っているときは苦しみの方が多いですね。でも苦しんだ家具ほど愛着があります」。

工房の隅には気持ちのいいバー・カウンター。仕事を終えると、同じように倉庫をアトリエにしている芸術家や友人たちが集まるサロンに変わる。今春の展示会をみて、ぜひにとやってきた弟子もひとりできた。身近ですっと使いたくなる家具が、今日も創造されている。



仕事が終わるとバー・カウンターの開店。友人、来客の書き込みのあるなかで会話が弾む



写真：宮保 大輔

久田 早苗さん(栄町)

牧畜とともに暮らした多彩なチーズ文化が日本でもようやく幅広く受け入れられてきたが、その先導役を夫の久田寿男さんとともに果たしてきたといえる。栄町の「チーズ王国」本店をはじめ各地の支店ではフランスなどヨーロッパ各国を中心に各国のナチュラルチーズを的確なアドバイスとともに奨めてくれる。日本女性では初のチーズ熟成士として、生きものであるチーズを「育てながら」、早苗さんは常にその先頭に立っている。

撮影場所：立川市栄町「チーズ王国」  
写真：細江英公

かたこと

早速お詫言と訂正で恐縮ですが、8月号の「川の肖像」第1回の知久正義作品「多摩川畔」の制作年は1991年でした▼休刊より復してまだ軌だりガタつきながらの努めです▼8月9日には創刊20周年の記念パーティーにたくさんの立川人のご出席をいただきました。いつものお顔、懐かしい方。多くの人に支えられてある「えくてびあん」です▼多摩川の鮎は昨年、今年と不漁とのこと。いろいろな要素があるのですが、鮎釣りひとつを通して環境の危うさが見えてきます▼立川にある「東京 賢治の学校」は既存の学校とは別の教育を目指しているNPO法人。代表の鳥山敏子さんは「日本人が本当に子どものことを考えているのなら、こんな環境破壊はしないはず」とも▼家具作りの山上一郎さんが木を削っていると、樹齢100年以上の米国産栗材から猟銃の弾が出てきたことがあるそうです。「少なくともこの弾で動物は死ななかつた」。伐られてなお生きている樹の命と、それをいとおしむ人の優しさに触れました。(賀)

スタッフ  
編集 大久保清志/清水恵美子/杉山清純  
中薫子  
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET designfactory  
写真 五来孝平/宮保大輔

えくてびあん (C) 9月号  
第22巻 通巻226号  
平成15年9月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 瀬尾勤三  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

◆ タチカワ誰故草 ② ◆  
破損・破鏡・破門

森 忠明

ヒップのポケットに入れていた「ブレイク詩集」(平凡社ライブラリー)を、梅雨のどんどん降りの日に無くしてしまった。立川中央図書館で借りた文庫本である。はげしい雨音と自分の下駄の音で落としたことに気づかなかったのだ。翌日、弁償しようと家を出て裏道をえらぶと、石川さんの扉にぶつかる。これに乾かして立てかけてあるではないか。一瞬よろこんだが、(これを乾かしてもミルワイユの皮みたいになる)とガバガバペラペラだらうな」と諦め、オリオン書房ノルテ店で同じ本(七百三十八円)を買ってから図書館へ行き、詫言した。



挿画：野崎義成

「破損届けをだしてください」  
女性司書が申しわけなさそうに言った。  
破損届けとは始末書の妹のようなものかな、いや姉かな、などと考えつつ署名しおえたら、三十二年前、アニメ製作会社の子プロダクション文芸部員だった頃を思い出した。  
当時、二十三歳の私は、会社のブルーバードを運転していて、やたらに接触事故を起こし、やたらに始末書を提出。  
「森くんのせいでブルーバードになっちゃったね」  
吉田竜夫社長の苦笑を忘れない。享年四十五。いい男だった。  
昨今は「寺山修司の弟子」という経歴よりも、「みなしごハッチ」や「ガッチャマン」にかかわっていたというほうがウケが良い。  
もっとウケようとする時は「映画『ポケットモンスター』の脚本家園田英樹の師匠」と威張ることにしている。

破損届けを出して四、五日後。彼から電話あり「こんど鳥栖市の名誉図書館長になりましたので、森さんのエッセイ集を宣伝してきます」と言った。  
「きみは世阿弥のいう男時で、俺は女時だ。図書館の本を汚して破損届け書かされた」  
いろいろほやいたら、  
「森さんが昔書いた離婚届けも破損届けの一種でしょ。あれは破鏡ともいいますしね。僕なんか何回この心を師匠に破損されたか……たしか三回、破門みたいなもってます。それにしても『ブレイク詩集』を無くすなんて、森さんらしくてカッコイイですね」  
とっほい感じが許せんが、フォロウのうまい弟子なのである。  
ワイリアム・ブレイク(一七五七〜一八二七)は、今こそ英国を代表する詩人となっているけれど、ほぼ無名、奇人変人あつかいされたまま永眠したのだという。  
彼の「老詩人の歌」なる作品の「導かるべき者でありながら他人を導こうとする」という一節や、「地獄の格言」の中の「一つの小さい花を創造することも数代を要する仕事である」(土居光知氏訳)という部分に胸打たれた私は、園田英樹に四回目の破門状をだせようもない。

えくてびあん流

森の自然観察会

雨のあがった7月27日、青梅市の森で自然観察教室がひらかれた。集まった親子は51人。自然教育研究センターのインタープリター(自然解説員)の案内で、音拾いゲームや森のマップ作りを楽しんだ。耳を澄ますと、蟬の声、鳥の羽ばたき、風の音。羽化したばかりのヒグラシが、緑色の薄い羽を乾かしている。ほっくりと持ち上がった土を掘り返すと、白いきのこのようなヘビの卵。オレンジ色の卵を抱えて笹の茂みをはっているのは、沢ガニのおかあさん。木の枝に引っかかってヒラヒラしていたのはヘビの抜け殻だった。実際に自然に触れることが、自然を守る第一歩なのだ実感した一日だった。



『立川市 詩歌のみち』出版



立川には詩歌の道がある。ゆかりの詩人・歌人・俳人の碑を今までに13基建立し、立川の地に文学の香りする遊歩道を作り上げてきた。その活動の中心人物で立川俳句会代表の谷川水車さんが、13基の碑ひとつひとつの作者と、その身近なエピソードや写真、直筆をまとめた『立川市 詩歌の道』を発売した。国語教科書や参考書に載っていた詩人や歌人はこんな人だったのか、と改めて作品を味わい、詩歌の道を歩いてみたいとなる。句碑の一つに選ばれている俳人やまのぎくさんは、谷川さんの妻で2000年に逝去。二人の息子さんの応援で亡き妻に捧げられた一冊でもある。

この人この店 ②

駄菓子・玩具  
むぎばたけ

店長 薄井由美子さん



一歩店内に足を踏み入れると、思い出の匂いが子供の頃の日々を蘇らせてくれます。ベーゴマ、ビー玉、おはじき、めんこにシャボン玉。ふ菓子やモロッコヨーグル、にんじん、ミルクせんべいに梅ジャム……駄菓子の数は200種類もあるそうです。「もう23年にもなるんですよ。始めた頃は駅が木造だったの」と、店長の薄井由美子さん。時は流れ街は変わっても、「駄菓子屋」のスタイルを変えませんでした。昔の小学生が、今はパパやママになって訪れます。レジ脇に、思わず手が伸びるミニチュアフィギュア。給食のシリーズはマニアでなくても懐かしい。駄菓子は袋詰めもしてくれます。レトロ感と夢をラッピングして、ちょっとしたプレゼントにいかがでしょうか。配達もしてくれます。お嬢さんご夫妻がお店に立つようになって、輸入雑貨やインテリア小物なども増えました。昨年リニューアルした「むぎばたけ」は、薄井さんのイメージそのままに明るくファッショナブルな駄菓子屋さんです。



〒190-0022 立川市錦町2-1-1  
タウンコート立川1F  
TEL: 042-526-0210  
営業時間 平日 AM11:00~PM8:00  
日曜・祝日 AM10:00~PM7:00  
定休日 月曜日



むぎばたけ 店内



給食シリーズフィギュア

立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ  
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/  
多摩てはこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

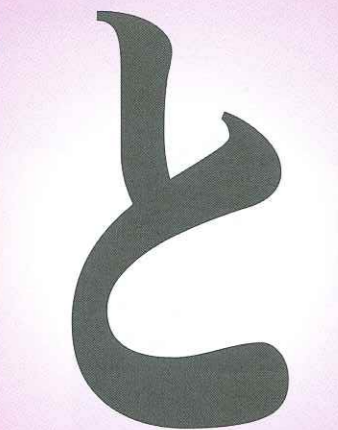
真如苑提供番組くじょうらくがじょう  
スカイパーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch  
土 曜 午前9時~9時15分  
午後7時15分~7時30分  
再放送/火曜 午前9時~9時15分  
午後7時45分~8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。  
立川に育てられて六十六年  
真如苑  
栄町1-2-13 Tel. 527-0111(代)



FROM CHUBU  
フロム 中武  
■営業時間 am10:00~pm 8:00  
〒190-0012 立川市曙町2-11-2  
Tel. 042-524-7111 (代表)

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……  
いろいろなコミュニケーションがあります。  
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、  
行なっている会社です。



大廣社は、企画デザインから  
印刷加工まで自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING  
PROCESSING・PRINTING  
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13  
TEL 042-527-1949 FAX 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp



### 「河原」

1988年 100F

多摩川を描き始めて間もない頃のなつかしい作品だ。JR矢川駅を下った府中用水取水口の水門は当時よく描いたが、この作品はちょうど対岸から水門のある国立側を描いている。今では高層ビルが建って、遠景がまったく変わってしまった。

ちょうど風景が描けなくて苦しんでいた時期で、とにかく現場で風景に向き合って丁寧に描くことだけ考えていた。色調や質感に満足するまで描いては消し、描いては削り取ったりして、ずいぶん時間をかけて仕上げた。

いわゆる「絵になる」風景ではないが、コンクリート製の堰や、一面敷かれたすり減って角のとれた十字型をした古いコンクリートブロックといった人工物と自然との時の流れの中で風景としてなじんでいる姿に、心を惹かれたのかもしれない。

川の流れも、きちんと決められた水路をまっすぐ進むだけでなく、せき止められたり迂回したり淀んだりしながら岸の水辺となじんで、また大河に戻っていく。人生も一呼吸おいた、ゆったりとした時間があったもいいじゃないか、と風景が語りかけてくる。

思えば、それ以来ずっと多摩川に向き合ってきた。何でもないうなひとこまではあっても、時を経たときにおしく思い出される一瞬がある。この作品の穏やかな晩夏の一刻も、私の心のなかに大切にしまわれている。